

◆企画広報室より

企画広報室 萩原 奈穂美

みなさん、明けましておめでとうございます！冬休み期間中は有意義に過ごすことができたでしょうか？お正月にご馳走やお餅を食べすぎたり、寝転がってばかりいて生活リズムが崩れてしまっていないですか？（私だけでしょうか？）今年は申（さる）年。申は本来「しん」と読み、「のびる」や「もうす」という意味があります。自分の特技を「のびす」ための今年の目標を立ててみるのもいいかもしれませんね。まだまだ寒い日が続きますが、今年度も残りわずか。一人ひとりが素敵な春を、気持ちよく迎えられるように過ごしていきましょう！

さて、1月12日（火）からは、後期AO入学選考B日程のエントリー期間となっています。出身高校の後輩や知り合いで、福祉医療や電子情報分野へ進みたいとか、進路で悩んでいる方がいたらぜひ、オープンキャンパスと併せて後期AO入学選考を教えてください。そしてみなさんが受験生の頃、面談や試験に緊張しながら臨んでいたのと同じように、これからの選考を控えて不安を感じている受験生達があります。そんな受験生やその保護者の方が本学へ来校された際には、皆さんが日頃から心がけている「元氣な挨拶」で迎えてあげてください。

また、企画広報室では少しでも多くの方に本学のことを知って頂けるように、様々な方法で中村学園の良さをアピールしていますが、中村学園の「良さ」を一番分かっているのは学生の皆さんだと思います。本学で学んでいること、目指していること、何でも構いませんので皆さんの後輩や本学を訪れている高校生に是非声をかけてください。「挨拶を基調とした全人教育」の大切さ、「なりたい自分になる」ための学校であることは、経験している皆さんだからこそ伝えられることです。1人でも多くの方が中村学園の良さを感じ、仲間が増えたら嬉しいですね。これからも共に中村学園を盛り立てていきましょう！

来年度入学生のため、入学選考・オープンキャンパスは下記の日程で行います。電子情報、福祉医療分野の希望者がいたら是非「行って見て！」と声をかけてくださいね♪

*後期AO入学選考

B日程 エントリー期間：1/12(火)～2/29(月)

*入学選考日

第4回入学選考 2/20(土) 特待・自己推薦・一般・社会人・留学生

*オープンキャンパス日程

1/16(土) 13:00～15:30
28(木) 17:00～18:30
2/4(木) 17:00～18:30
20(土) 13:00～15:30

個別相談会
保護者説明会
同時開催

1月の行事

- 1日（金）元旦
5日（火）仕事始め
6日（水）後期講義再開
7日（木）CP スクーリング
11日（月）成人の日
12日（火）2CP 保育実習Ⅳ（保育所）
16日（土）オープンキャンパス 13:00-15:30
☆託児所：あり
18日（月）1TW・CW 第2期実習（～1/30）
21日（木）J 検 CBT
25日（月）1CP 保育実習Ⅱ（保育所）
E 職場体験④
28日（木）オープンキャンパス 17:00-18:30
30日（土）☆託児所：あり



◆他人の「働く」に学ぶ

進路室長 橋野 幸男

新しい年を迎えました。卒業年次の学生はまもなく社会人、また、次年度卒業年次では「就活」準備が本格化しています。そうした皆さんに、「社会との接点」としての仕事を考える上で参考になるであろう1冊を紹介します。

宮本恵理子・日経 Kids+編『大人はどうして働くの?』

〔日経 BP、H.26.7 発行〕

本書は、子どもの素朴な質問に識者が答えるシリーズの、第3弾〔①『子どもはなぜ勉強しなくちゃいけないの?』、②『生きる力ってなんですか?』〕。今回のテーマは「仕事」で、次の7名からの、「子ども編」＝「将来、働く人」への、「大人編」＝「今、働く人」へのメッセージを一冊にまとめたものです。

- ・天野篤〔心臓血管外科医。天皇陛下の手術を執刀〕
- ・有川浩〔作家〕
- ・池上彰〔ジャーナリスト〕
- ・坂本フジエ〔助産師。90歳を超えて現役〕
- ・浜矩子〔エコノミスト〕
- ・樋口泰行〔日本マイクロソフト・代表者〕
- ・三浦しをん〔作家〕

ちなみに、ネット上には以下のようなレビューが投稿されています。

- ・「子どもが進路を決めていくに当たり参考になる本をと求めたうちの1冊ですが、大人にも心に響く言葉が沢山ちりばめられていました。それぞれの方が、常識的な観点からではなく、生きることに通じる、『働く』ことの本質を語ってくださっています」
- ・「働く意味なんて、深く考えたことがありませんでしたが、7人の著名人のメッセージに、ハッとさせられることばかりで、読んでいて『明日もがんばろう』という気持ちになりました」

ここでは、『図書館戦争』、『県庁おもてなし課』や『空飛ぶ広報室』といった、映画・TVドラマで私たちに馴染みのある作品の原作者である有川浩さんのメッセージを紹介します。

タイトルは、『カッコ悪くても 誰かのために義務を果たすのはカッコいい』。「子ども編」からの引用です〔なお、「…」は、中略です〕。

—— 働いている大人は、誰のために働いているのでしょうか。自分のため？ たしかに…。でも、働いている人が仕事をしながら抱えている感覚の大部分は、「自分以外の誰かのため」だと私は思います。…一つ一つの職業に、それぞれ違った「義務」があります。義務を果たすことで、誰かのためになるようになっている。「義務」は「役割」と考えてもいいかもしれません。…そんなふうに誰かのために義務を果たす姿を、私はとてもカッコいいと思います。…私の小説には、いろんな世界で働く大人がたくさん出てきます。それは、私が働く人を「カッコいい！」と思っているからです。

小説を書く前には、小説の舞台になる世界で実際に働いている人に会い、日頃どんな仕事をしているのか、話を聞きます。…どこで働く人もカッコよく義務を果たしていました。相手のためになるうと一生懸命に考えて行動しているのです。そして、その仕事に誇りを持って堂々としている。それがとてもカッコいいと感じました。…小説家である私の義務は何かというと、「カッコよく働く人たちのことを物語にして たくさんの人に知らせること」だと思っています。私は、その義務を果たし続けられるカッコいい大人でありたい。物語が読む人に与える影響力はとても大きいからです。

だから、私の小説を読んで「こんなふうに働く人たちがいることを初めて知りました」とか「主人公の仕事に興味を湧きました」と言ってくれる子どもたちがいると、私はとてもうれしいです。小説に出てくる人たちと、小説を読んでくれた人たちを“つなげる”ことができた気がするのです。——

後半では、デビュー作『塩の街』創作の過程を振り返って、次のように述べます。

—— どうして突然デビューできたのでしょうか。このとき、私はきれいにまとまった上手な文章を書こうとせず、ただがむしゃらに、なりふりかまわず、自分が面白いと思うものを信じて書きました。「これでダメならあきらめられる」と思えるほど、やり切りました。

「自分が魅力的だと思う人をしっかり書こう」と、今の私が果たそうとしている「義務」に近い気持ちを、真っすぐに持つようにしました。そうしたら、初めてたくさんの人に「面白い」と言ってもらえる作品になったのです。

自分のことや自分で作った何かを誰かに知ってほしいと思うとき、「みっともない姿を見せたくない」と思ってちょっとカッコつけてしまう気持ち、ありますよね？ でも、きれいに整った姿よりも、一生懸命あがいている姿のほうがずっと魅力的に映ることもあります。

だから、あなたたちも、「みっともない姿を人に見せたくない」なんて思わずに、もがいて、あがいて、何にでもぶつかってください。そうやって積んできたものが、大人になって役に立つ財産になります。

——
いかがでしょうか。「小説に出てくる人たちと、小説を読んでくれた人たちを“つなげる”

という表現で、有川さん自身の「仕事の定義」、作品のモチーフがよく理解できるのではないのでしょうか。

なお、編者の宮本さんが『おわりに』に、7名に共通するものとして「誰かのために」と「働く意味は経験を重ねる中で変化してきた」の2点を挙げ、更に、ご自身の考察として「働くことは『自分を知る』作業の連続ではないかと思うに至りました」と書いています。

さあ、皆さんもこれから就く仕事で、あるいは就活で、「もがいて、あがいて、何にでもぶつかって」いきましょう。そして、各々の「働く意味」を成長させましょう。

◆メディックファーストエイドを受講して

子ども心理学科 3年 大石 勇太

私は今回、メディックファーストエイドを受講させて頂きました。今まで自分の身近で誰かが倒れたり、大きなケガをしたという場面に遭遇したことがなく、自分にはあまり関係のないことだと思い、重要視していませんでした。

しかし、これから保育の職に携わるにあたってとても大事であり、理解しなければいけないことだと痛感しました。

授業も講義だけでなく、実技を途中に交えながらだったので、とても楽しく受けることができました。実際にやってみて、いざ、心肺蘇生やAEDを使う場面になったときに、やり方や使い方をしっかり理解していないと、パニックになってしまうと思いました。

就職し、保育現場で、もしかしたら子どもが倒れてしまったりする場面があるかもしれません。その時に困らないように、そして大切な命を救えるように、学んだことをしっかりと活かしていきたいと思います。

◆静岡福祉医療専門学校

平成27年度 海外研修修学旅行を終えて ～アメリカ合衆国ハワイ州（オアフ島）～

12月2日(水)～12月6日(日) 3泊5日

《研修概要》

◎多民族コミュニティにおける異文化交流を実体験！！

・ハワイ大学マノア校研修セミナー、
介護・医療・学童保育施設研修

教頭 有賀 浩

静岡福祉医療専門学校 4学科の2年生が参加した今年度のハワイ海外研修修学旅行。全員が旅行前から目的を明確にし、高い意識をもって臨んだことにより、実に多くの成果を挙げる事ができました。寒い日本とは気候が正反対。連日爽やかな好天に恵まれ、誰一人として体調を崩すことなく、無事に旅の全日程を完遂しました。

ハワイ大学マノア校における全員合同の研修では、『フラの歴史とデモンストレーション』と『アメリカソーシャルワーカーの仕事と価値観』を受講。福祉施設、病院、学童保育施設に分かれての学科別研修では、利用者さんや子どもたち、スタッフの方々と直接交流。学生たちは専門分野の特性を大いに活かして活動し、現地の方々からも本学学生を高く評価して頂くことができました。

また、大自然に包まれた風光明媚の地として世界的に有名なハワイ・オアフ島で、観光やスケールの大きな商業施設等でのひとときも過ごし、友情の絆も一段と強まりました。

歴史・文化の異なるハワイで、言葉や人種が違う多民族コミュニティにおける社会・生活スタイルについて学んだとともに、海外に出てはじめてわかる日本の素晴らしさも実感できました。社会に出て、医療、福祉、幼児教育などのプロフェッショナルとなっていく学生たちにとって、今後大いに役立つことでしょう。

旅行前の段階から帰国まで、理事長・校長先生には熱くご指導を頂きましたこと、また、旅行中を守って下さった教職員の皆さん、旅全般に亘ってご支援下さいました保護者の皆様に心から感謝申し上げます。

子ども心理学科 2年 片井 彩乃

今回のハワイ研修修学旅行は海外の異文化に触れる貴重な体験ができました。

二日目はハワイ大学へ行き、ハワイの福祉や文化についての講義を受けました。ハワイには様々な人種の人々が暮らしており、異なった文化や価値観をもった人がいます。自分の文化を大切にしながら、他の文化も受け入れ、尊重する社会を作り共存しているということを知りました。

次に、ハハイオネ学童保育プログラムを訪問しました。そこでは、現地の子ども達と一緒に遊んだり宿題をすることを通して、ハワイの学童保育について学びました。交流する中で言葉が通じず、あまり会話はできませんでしたが、コミュニケーションツールとしての「遊び」を一緒に楽しんだり、持参した「折り紙」を使って、日本の文化を伝えるなどして心を通わせることができました。

今回の経験を踏まえ、世界の福祉についてさらに視野を広げていき、今後の学習や生活に活かしていきたいと思います。

医療情報秘書科 2年 池田 阿矢加

今回の研修旅行を終えて、ハワイについてたくさんを知ることができました。ハワイ大学でフラのことを教えていただきました。フラは古代フラと現代フラがあること、両手を使って愛や太陽など様々な表現の仕方があり物語を作っていることを知りました。

また、皆さんが大切にしている文化があることが素晴らしいなと思いました。

施設視察研修では、ハレナリリハビリテーションで働いている職員の方の仕事を拝見させていただいたり、施設で行っているレクリエーションで「ふるさと」を歌わせていただきました。利用者の方が笑顔で接してくださり嬉しかったです。他にも日本とは違ういろんな取り組みがあり新鮮に感じました。

現地の人に言葉が通じなくて不安な気持ちがありましたが、笑顔で対応していただきとても印象的でした。私も日頃から『笑顔』を心掛けたいと思いました。研修旅行で多くの貴重な体験ができ、とても良い思い出になりました。

H27.12.4 ハワイ大学セミナーハウス

